

恕の心



令和4年2月3日 校長 廣瀬 真樹

立志に向けて②

前回の学校だよりの続きです。この文は昨年も紹介させていただきました。この文章は元メジャーリーガーの松井秀喜選手が高校三年生の時に「立志に寄せて」と言うことで中学二年生にむけて書いたものです。

高校野球を通じて学んだ人間形成 (松井秀喜)

自分が甲子園を志し、星稜高校に入学した平成二年の四月、同校の野球場にいて一番不思議に思ったのは、ベンチに置かれていた黒板に野球部の motto が『人間形成の野球』と大きく書かれていたことです。当時、はっきり言って、その意味が分かりませんでした。その状態のまま、毎日の練習が過ぎていきましたが、ある日のミーティングで、監督さんから、キャッチボールの意味を問われました。自分はキャッチボールとは野球の基本であり、肩を暖めるためだと確信していました。しかし、返ってきた答えは違いました。「相手の捕りやすい所へ投げ、相手も自分の捕りやすい所へ投げる。その相手を常に思いやる気持ちが大切なんだ。そして、心と心でコミュニケーションをとっていくんだ。それが、キャッチボールで一番大切なことなんだ。」ということ監督さんは言われました。そのときに初めてベンチの黒板に書いてあった、『人間形成の野球』ということが分かったように思いました。

そのときから、自分の野球に対する考え方が変わり始めました。試合に臨むときはチームの和を大切に、個人個人においては『心・技・体』を、常に充実しなければいけない。そういう気持ちで野球をやっという考え方に変わったのです。

『心・技・体』と書きましたが、その中で一番大切なのは、『心』だと思います。心が安定してこそ、技と体力が後で付いてくると思います。しかし、心を鍛えるためには、それだけの修羅場をくぐらなければいけないと思います。

星稜高校ということで、勝利を常に求められていました。その中で勝っていくということは、至難の業でした。しかし、自分たちは、どんな試合でも絶対に挑戦者だと思って戦いました。そうすることによって、心の不安を取り除き、試合中は励まし、助け合って勝利への道を開いていきました。

自分も、この三年間でいろいろな体験をしてきました。その得たものの中でも、一番大切なのは、自分の夢を作り、それに向かって毎日努力していき、そこで『人間形成』を成し遂げていくことだと思います。

みなさんも、大人への第一歩を踏み出します。いろいろな困難があり妥協するときもあるかもしれませんが、自分自身で決めた目標に向かって、一生懸命頑張り挑戦し続けてください。そして、いい友に出会い、すばらしい『人間形成』を成し遂げていってください。

精神面の大切さを感じる素晴らしい文章ですね。皆さんも自分の気持ちに打ち勝ってこれから頑張っていってほしいです。うらに続く

松井秀喜の言葉

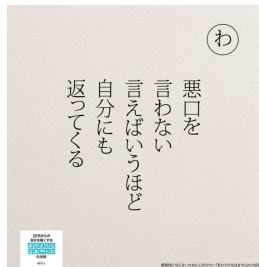
「日本人メジャーリーガー」といえば、皆さんは大谷翔平選手だと思いますが、私の一番は、やはりこの人なのです。実は大ファンで能美市にある「松井秀喜ベースボールミュージアム」には年に一度、必ず行っています。彼の魅力はなんといってもその人柄です。彼の残した名言は数々ありますが、中でも今回紹介する言葉が私は個人的にとっても印象に残っています。



腹が立ったり不満が出てきたりするのには仕方ありません。思ってしまうのだから自分にも止められない。でも口に出すか出さないかは、自分で決められます。その時に自分で自分をコントロールできることが人として大事なのだと思います。

ちなみに松井選手は野球選手になろうと決めてから、一度も人の悪口を言ったことがないそうです。一度も!です。その始まりは中学時代の父の教えによるものです。ある時、秀喜少年が「あいつのせいで今日の試合は負けてしまったよ…」と友達の悪口を言っているのを聞いたお父さんが、松井氏を正座させ「人の悪口を言うような下品なことをするんじゃない。今ここで二度と人の悪口を言わないと約束しなさい!」と強く叱ったそうです。それ以来、どんなに悪口が出そうな時も、父の言葉を思い出して「グッと我慢した」そうです。誰もが憧れる甲子園球場で、5打席連続敬遠を受けたときもそうでした。彼はグッと涙をこらえていましたが、決して相手投手の悪口を言うこと、つまり批判することはありませんでした。

彼のように行動することはなかなか難しいです。ただ、悪口や文句を口に出す前に、少し立ち止まれる人でありたいと思います。本当の強さ、本当の優しさはこういうところにあるのだと思います。



何をやる時もそうですが、それをうまくやる技術だけを磨いても決して本当の力はつかない。心の 実力をつけることが大切なのだという事を教えてもらっているような気がします。「人を怒^{ゆる}す」という気高い心、難しいけれど努力していきたいですね。

